特徴❶ 生活のしやすい環境

宮崎県は全国での消費者物価地域差指数の低さが全国1位、家賃の安さは全国3位、通勤・通学時間は平均約56分で全国1位の短さと生活のしやすい環境が整っています。
また、人口10万人あたりの保育所数等は全国6位と、子育て世帯にも優しい生活環境となっています。

- 消費者物価地域差指数の低さ（2021年） 全国 1位
- 家賃の安さ（2018年） 全国 3位
- 通勤通学時間の短さ（2021年） 全国 1位
- 人口10万人あたりの保育所数等（2020年） 全国 6位

特徴❷ 国内外を問わず、利便性の高いアクセス環境

陸路

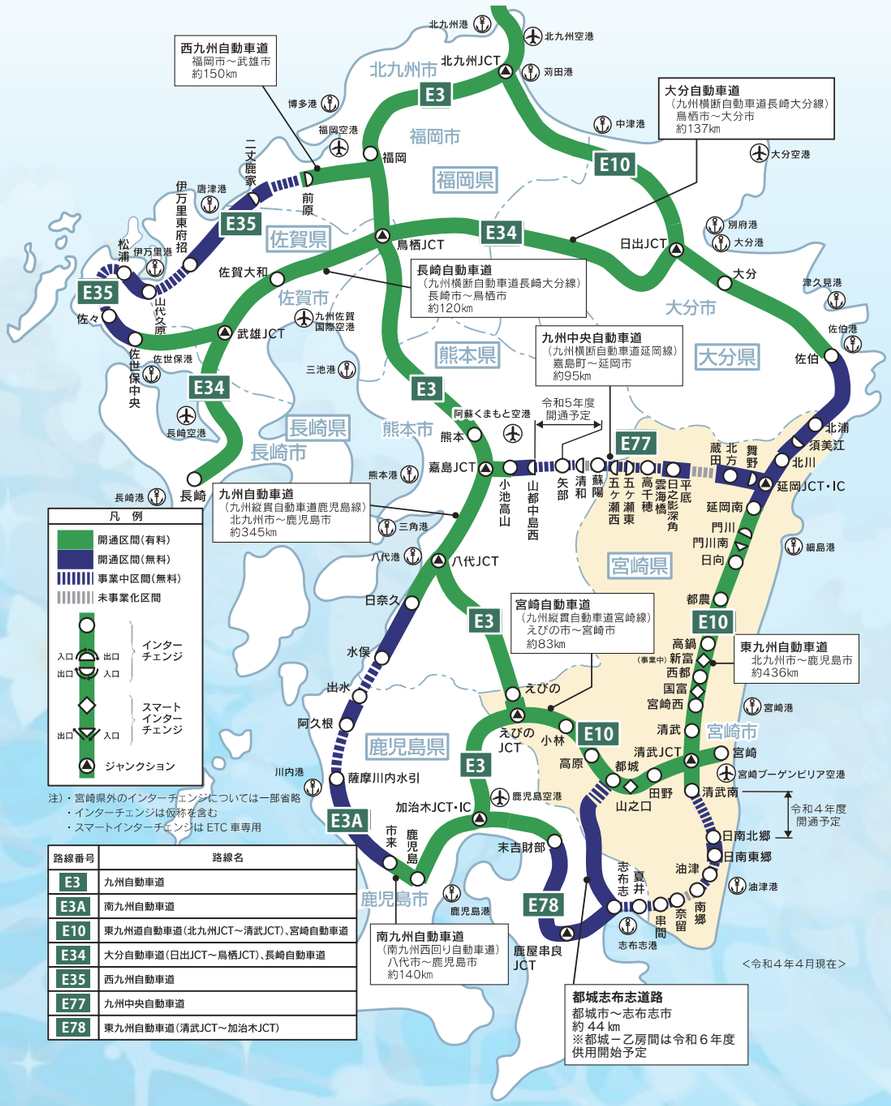
宮崎空港から宮崎市内まで車や電車で30分、南部の日南市まで車で50分、さらに福岡まで車で約4時間と、北部九州までのアクセスも便利です。

海路

県内に細島港、宮崎港、油津校を有し、宮崎～神戸間では令和4年から「フェリーたかちほ」「フェリーろっこう」の新船が就航しており、さらに中国・韓国・台湾への国際航路があるなど、海上インフラが充実しています。

空路

宮崎～東京（羽田）間は1日17往復・片道100分、宮崎～大阪（伊丹）間は1日11往復・片道70分と大都市圏へのアクセスが良く、韓国と台湾への定期便も就航しています。



［海］海上交通

国内	
カーフェリー航路	
宮崎ー神戸	［1便／日］
RORO船航路	
宮崎ー細島ー大阪	［3便／週］
大分ー東京ー細島（降ろしのみ）ー大分	［1便／週］
油津ー東京ー油津ー志布志ー那覇ー志布志	［3便／週］
定期コンテナ航路（内航フィーダー）	
細島ー神戸	［1便／週］
油津ー神戸	［1便／週］
国外	
定期コンテナ航路	
細島ー韓国	［3便／週］
油津ー中国	［1便／週］
細島ー台湾	［1便／週］

［空］航空交通

国内	
宮崎ー東京（羽田）	［約100分］［17往復／日］
宮崎ー東京（成田）LCC	［約120分］［※1往復／週］
宮崎ー大阪（伊丹）	［約 70分］［11往復／日］
宮崎ー大阪（関西）LCC	［約 70分］［ 1往復／日］
宮崎ー名古屋（中部）	［約 90分］［ 3往復／日］
宮崎ー福岡	［約 50分］［13往復／日］
宮崎ー沖縄	［約 90分］［ 1往復／日］
国外	
宮崎ーソウル（仁川）	［約100分］［ 3往復／週］
宮崎ー台北（桃園）	［約120分］［ 2往復／週］

※令和5年3月現在、国際定期便は運行停止中

＼日本のひなた、宮崎で農業ビジネスをはじめませんか／

農業参入パンフレット

地域とともにひなたスマートアグリを実現



日本のひなた 宮崎県

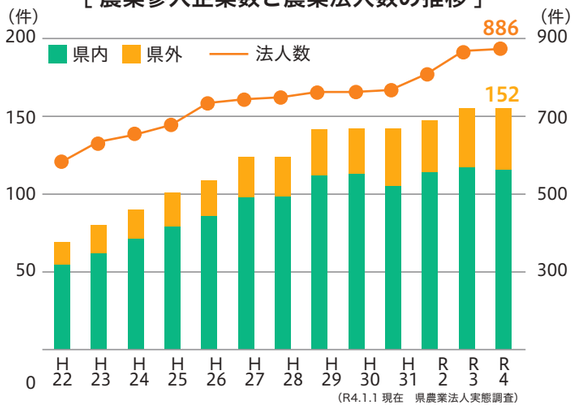
県内外から宮崎県への他産業からの農業参入が増えています
県・市町村・農業団体等が連携してサポートします

hinata Smart Agri

県内外からの累計 150 件以上の参入実績

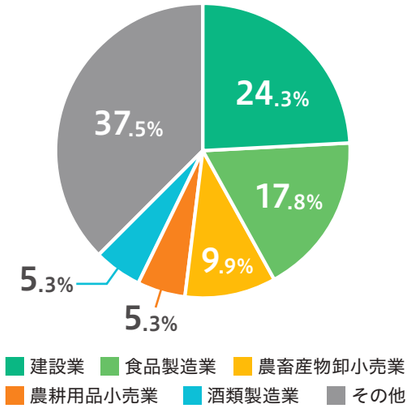
県内には本県農業の原動力となっている 886 社の農業法人があり、農業参入にあたっての強力なパートナーとなっています。

［ 農業参入企業数と農業法人数の推移 ］



(R4.1.1 現在　県農業法人実態調査)

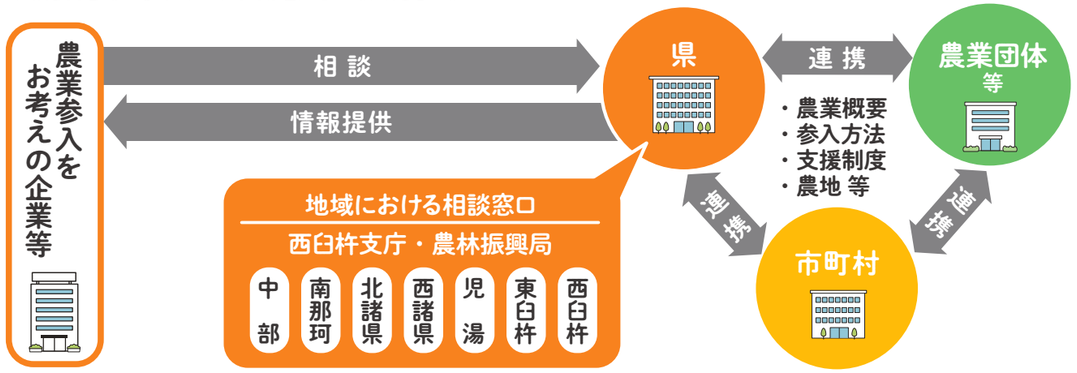
［ 農業参入企業の業種 ］



参入前の相談から参入後のフォローアップまできめ細やかなサポート体制

農業参入の相談 事前の情報収集 → 参入プランの作成 → 農地の確保 → 農業技術の習得 生産手段の整備 → 営農開始

農業に参入しようとするときは、まず、県庁担い手農地対策課にお越しください。市町村や関係団体と連携を図りながら、適切な情報提供を行いますので、お気軽にご相談ください。



参入企業の声

株式会社ひむか農園（日向市）

- 親会社 …… 株式会社内山建設（宮崎県日向市）
- 参入年 …… 2019年12月
- 栽培面積 …… 4ha
- 事業内容 …… へべす（露地）の生産・加工・販売





農業参入の背景

1. 「企業活動を通じて　地域に物心ともに　豊かな社会にする」の理念のもと、新規事業として立ち上げ
2. 関連事業（園芸用土と有機肥料）とのシナジー戦略として参入した
3. 新たな事業の柱として農業に参入

参入地域を選んだ理由

地元での新規事業を考えたため

参入までの流れと県や自治体の支援内容

2018 年	●農業参入の事業構想を描き始める ●宮崎県に相談し、日向市原産の香酢かんきつ類「へべす」の提案を受け、その魅力に惹かれる
2019 年	●事業立ち上げの目途が立ち、農業法人を設立する
2020 年	●県、日向市、JA日向の協力により、候補地を探し始める ●地元のへべす生産者から現ほ場の紹介を受ける
2021 年	●地域の支援により、地権者をとりまとめ、農地バンクを通じて2haを借受け、県補助事業を活用し造成後、第１農園（西川内地区）で営農を開始 ●普及センター及びJA日向、先輩農家から営農開始に向けた技術的支援を受ける
2023 年	●生産量の拡大のため、第２農園（深谷地区）を農地バンクを通じて8ha集積し、農地耕作条件改善事業の活用により、造成を開始。

今後の展望

- 今後栽培面積を10.5haに拡大予定。自社の生産量拡大だけでなく、各農家で収穫したへべすを自社を通じて販売することも考えている
- へべすの加工品開発を進めており、県から加工品に関する補助金の紹介・支援、加工品の専門家の紹介、相談窓口での相談などの支援を受けている
- へべすの知名度をあげることで、宮崎発の特産品として商業・観光で人を呼び込むきっかけにつなげていきたい

JR 九州ファーム（新富町）

- 親会社 …… 九州旅客鉄道株式会社（福岡県福岡市）
- 参入年 …… 2013年７月
- 栽培面積 …… 3.63ha
- 事業内容 …… ピーマン（促成栽培）の生産・販売





参入地域を選んだ理由

宮崎県から農産物に関する積極的提案（県の特産品であるピーマンと篤農家、事業用地の紹介（新富町））があったため参入した。
それらの宮崎県からの提案が自社の戦略にマッチしていた。

1. 地元からの理解が得られること
2. 一定程度の栽培面積が確保できること
3. 農業の素人でも栽培できるように栽培指導が受けられる体制があること
4. 栽培品目が地域のブランドとして確立されていること

参入までの流れと県や自治体の支援内容

2011 年	●宮崎県から農業参入の提案があり、参入を検討
2012 年	●県内各地域を視察し、参入候補地や品目を検討
2013 年	●宮崎県から提案があった特産品のピーマンを選定する ●新富町のピーマンの篤農家を紹介される ●国・県補助事業により低コスト耐候性ハウス６棟を整備。 ●新富町や篤農家が積極的な行動により、土地探しや集約がスムーズに進み、172aで栽培開始する
	●参入後は篤農家や普及センターの営農指導を受け栽培技術を安定化、年々生産量を増加
2019 年	●国補助事業を活用し低コスト耐候性ハウス８棟を整備、生産面積を363aに拡大する（JA児湯管内のピーマンの耕作面積2,676aの１割以上を占め、産地維持へ貢献）

今後の展望

- 自社農場における生産技術の確立を前提に、地域の農業者と連携して地域全体での更なる産地づくりにも取り組みたい
- 高品質な宮崎県産ピーマンの知名度アップに貢献したい

「日本のひなた」と呼ばれる温暖な気候で、年間を通じて魅力的な農業が可能です

平均気温が高く、温暖な気候に恵まれ、日照時間及び快晴日数は全国トップクラスにあるなど、恵まれた自然条件を有しています。この気候・地形や標高差を十分に生かし、年間を通して多種多様で魅力的な農業が可能です。

〈 気候の凡例 〉 は種 定植 収穫

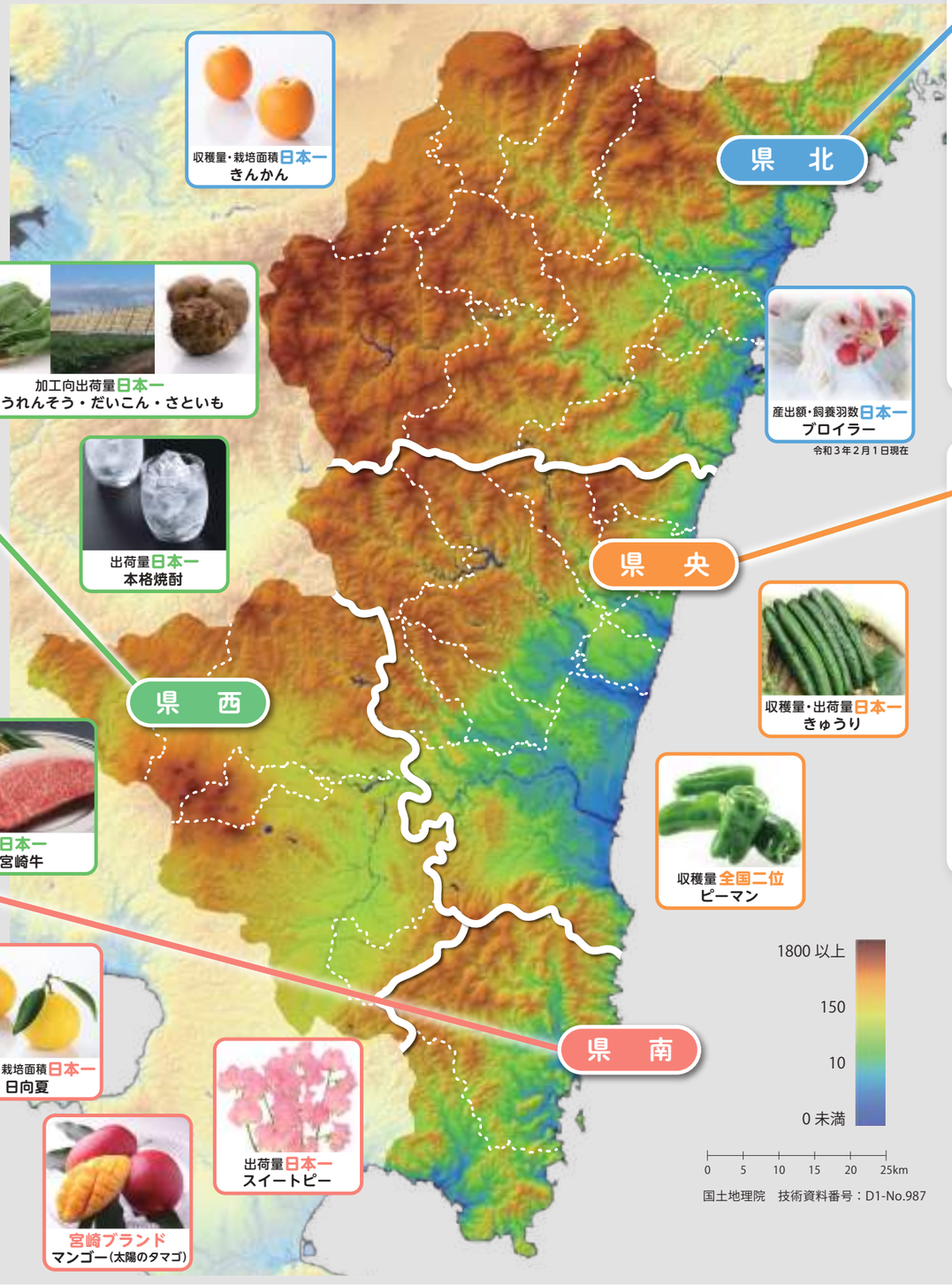
宮崎県の農業の特徴

宮崎県では、温暖多照な気候、平地から山間地に至る変化に富んだ地形など優れた資源を生かした農業を展開しており、宮崎牛や完熟マンゴーなど、全国に誇るブランド品目を有し、農業産出額は全国第４位と、全国有数の食料供給基地として重要な役割を担っており、今後さらなる拡大を目指していきます。

生産額ベース
食料自給率
（令和２年度）
301％
全国１位

農業算出率
（令和３年度）
3,478億円
全国４位

［ デジタル標高地形図 ］



収穫量・栽培面積日本一
きんかん

加工向出荷量日本一
ほうれんそう・だいこん・さといも

出荷量日本一
本格焼酎

日本一
宮崎牛

収穫量・栽培面積日本一
日向夏

宮崎ブランド
マンゴー（太陽のタマゴ）

出荷量日本一
スイートピー

産出額・飼養羽数日本一
ブロイラー
令和３年２月１日現在

収穫量・出荷量日本一
きゅうり

収穫量全国二位
ピーマン

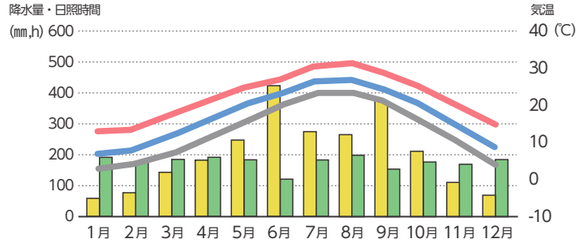
1800 以上
150
10
0 未満

0　5　10　15　20　25km

国土地理院　技術資料番号：D1-No.987

県北（延岡市）

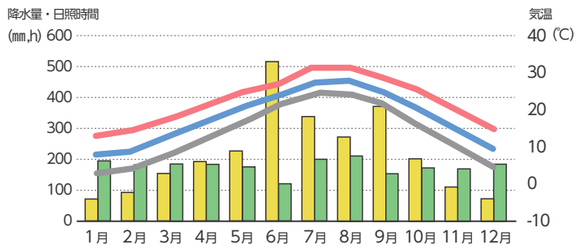
冷涼な気候で、標高差を活かした夏秋野菜、茶、へべすが盛ん



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
きんかん（ハウス栽培）	●	●	◗									
へべす（露地栽培）								●	●	◗		

県央（宮崎市）

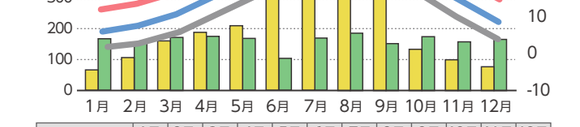
沿岸部で温暖多照な気候、きゅうりやピーマンなど施設園芸が盛ん



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ピーマン（促成栽培）	●	●	●	●	●	●		◗	●	◗	●	●
きゅうり（露地栽培）	●	●	●	●	●				◗	●	●	●

県西（都城市）

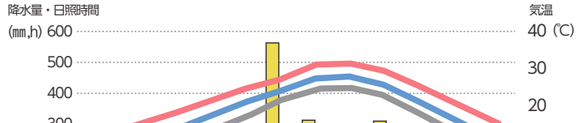
盆地が広がる内陸性気候、大規模な露地園芸や畜産が盛ん



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さといも			●	●				●	●	●	●	
ほうれんそう（秋冬栽培）	●	●	◗	●	●	●			◗	◗	●	●

県南（日南市）

南国で年間を通じて温暖、亜熱帯果樹や花きが盛ん



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
かんしょ（普通栽培）					●				●	●	●	◗
日向夏（露地栽培）			●	●								

宮崎県の気候の特徴

全国気象観測地点における日照時間と順位

快晴日数	52.7日	（全国２位）
日照時間	2,116時間	（全国３位）
平均気温	17.4度	（全国３位）

宮崎は「ひなた指数」総合１位

ひなたスマートアグリ

宮崎県では他産業の技術や情報を農業に取り込むことを「スマート化」と定義し、生産部門での技術革新、効率的な生産環境、分業生産体制構築による経営ステージに応じた生産性の向上に加え、物流の効率化、多様な販売形態への対応等、生産・流通・販売の施策を連鎖的に展開していくことで、魅力ある農業の実現を目指しています。



新世代分析装置による出荷前検査体制
（約 50 分で分析可）

（一社）食の安全分析センター

県北エリア

伝統農業 × 革新技術による新たな農業ビジネスの創出

県北エリアは、沿海地域から山間地域まで標高差を生かした様々な経営が営まれており、ミニトマト、たまねぎ、シキミ、へべす、くり、棚田米、全国的に希少な釜炒り茶など特色ある品目の産地が形成され、世界農業遺産にも認定されています。

目指す姿・求める力

世界農業遺産「高千穂郷・椎葉山地域」に象徴されるように伝統に裏付けられた特徴的かつ持続的な農業と革新技術の融合による新たなビジネスの展開を目指しています。





県央エリア

施設園芸 × 先端技術による大規模化 × 効率化 × 集約化





県央エリアは、冬季の温暖な気候を生かしたきゅうりやピーマン、マンゴーなど施設園芸を基幹に、早期水稲等の水田営農と畜産を組み合わせた農業経営が行われています。

目指す姿・求める力

施設園芸の大規模化や先端技術導入、物流の効率化による産地革新、新たな農業の成長産業化を目指しています。

県西エリア

分業化による大規模露地園芸や資源循環型農業の展開

県西エリアは、鉄道や高速道路、国道等のインフラが整備され、南九州の要衝地となっており、畜産を中心に、さといもやほうれんそう、ごぼう、大根等の加工向け野菜など多彩な農業が展開されています。

目指す姿・求める力

耕畜連携の下、大型機械やＩＣＴ技術、コントラクター※等による分業化で効率的かつ省力的で持続可能な資源循環型農業を展開します。※農家等から収穫作業等の農作業を受託する組織。





県南エリア

南国 × スマート化による高付加価値な農業の創出





県南エリアは温暖多照な気候等恵まれ、自然条件を最大限に生かし、超早場米やかんきつ類、食用かんしょをはじめ、スイートピー、きゅうり、ピーマン、きんかん、マンゴーなど多彩な施設園芸が展開されています。

目指す姿・求める力

きんかん、日向夏、マンゴーなど多彩な果樹の産地加工や省力化技術導入、高付加価値化による輸出拡大など豊富な地域資源を生かした魅力ある農業を展開します。

いつでもお気軽にお問い合わせください

農業参入相談窓口 宮崎県担い手農地対策課 〒880-8501 宮崎市橘通東2-10-1 ☎ 0985-32-4465

県内の窓口

西臼杵支庁	農政水産課	〒882-1101 西臼杵郡高千穂町三田井22	☎ 0982-72-2108
中部農林振興局	地域農政企画課	〒880-0805 宮崎市橘通東1-9-10	☎ 0985-26-7279
南那珂農林振興局	農政水産企画課	〒887-0031 日南市戸高1-12-1	☎ 0987-23-4312
北諸県農林振興局	地域農政企画課	〒885-0024 都城市北原町24-21	☎ 0986-23-4507

県内の窓口

西諸県農林振興局	地域農政企画課	〒886-0004 小林市細野367-2	☎ 0984-23-3165
児湯農林振興局	地域農政企画課	〒884-0002 児湯郡高鍋町北高鍋3870-1	☎ 0983-22-1364
東臼杵農林振興局	農政水産企画課	〒882-0872 延岡市愛宕町2-15	☎ 0982-32-6135

県外の窓口

宮崎県東京事務所	〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館15階	☎ 03-5212-9007
宮崎県大阪事務所	〒530-0001 大阪府北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第１ビル９階	☎ 06-6345-7631
宮崎県福岡事務所	〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-12-1　天神ビル８階	☎ 092-724-6234